

山大医学部・病院だより VOL.268

# YUMEHO

# ゆめほ。

1  
2025

今月号からタイトル一新!



「ロボット手術」を知る



「ゆめほ。」ネーミングの由来

言葉としての言いやすさ、親しみやすさを考慮するとともに下記の意味が込められています。

ゆめ：「YUME(Yamaguchi University Faculty of Medicine and Health Sciences = 山大医学部の略)」+「皆の願い(夢)を叶える」

ほ：ホスピタルの「ほ」+ 山口弁の語尾の「ほ」+ 一歩ずつ前進する「歩」

明けましておめでとございます。新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年の干支は乙巳(きのとみ)ですが、「乙」は柔軟性や協調性を象徴し、周囲との調和を保ちながら目標に向かって進んでいく力を表しています。「巳」にはたくましい生命力があり、脱皮するたびに身体が整っていくため、医療、治療、再生のシンボルとされています。乙巳の年は、再生や変化を繰り返しながら柔軟に発展していく年になると考えられています。そのためには、すぐに結果が出なくても、辛抱強く取り組

松永和人

山口大学医学部附属病院長



むことが大切です。山大病院では全職員が一丸となり、「一人ひとりの健康と安心の探求と実現」を目指して取り組んでいます。今後とも変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本院が10年前から進めてまいりました病院再開発整備事業は令和7年度に主要な施設の工事が完了する予定です。再開発による病院機能の強化は、今後とも持続的かつ強靱な体制で高度医療を提供していくための礎となります。また、社会情勢や施設周辺環境変化に対応する中で、外来予約時間と採血時間の変更、外来処方箋の電子化などの取り組みを段階的に進めています。日常診療を行いながらの再開発であり、加えて新たなシステムの導入も続いており、皆様には多大なご負担とご不便をおかけしていますことをお詫び申し上げます。何卒ご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

最後になりましたが、本年が皆様にとって心穏やかで健やかな、明るく希望が持てる年になりますことを祈念申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

蛇は古来より知恵と再生の象徴とされてきました。その姿勢から「用心深さ」を脱皮する習性から「変化と成長」を表すとも言われています。常に慎重に患者さんと向き合い、日々変化する医療環境に適応し、絶え間ない成長を続けることが求められる医療従事者にとって、これらの特性は非常に重要と考えられます。振り返れば2024年はさまざまな出来事が社会を揺るがせま

田邊剛

山口大学医学部長



新しい年を迎え、さらなる飛躍を目指し、医療の質の向上、人材育成、そして地域社会への貢献を通じて、地域の健康に寄与できるよう、共に心を新たに邁進することを目指したいと思います。本年も皆様のご尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

本年が皆様にとって実り多く、希望に満ちた一年となりますよう、心よりお祈りいたします。

こうした中、本学部・病院の教職員の皆様、地域の方々の健康を守るべく、日々努力を重ねてこられ、最新の医療技術の導入や研究の推進、そして何より患者さんに寄り添った医療の提供に全力を尽くしておられることに深く感謝申し上げます。これらの取り組みをさらに発展させ、山口大学医学部が地域医療の中核を担う存在として、社会の期待に応えていくことが重要と考えます。

新年あけましておめでとございます。2025年の干支である乙巳(ひ)年を迎え、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

1月には石川県能登半島を震源とする大地震が発生し、多くの方が被災されました。また、10月には衆議院選挙が行われ、政治の世界にも大きな変化がありました。これらの出来事は、私たちに社会の変化への対応力と、地域医療の重要性を改めて認識させるものでした。

Information

呼び出しモニターのライブ配信を開始しました

令和6年11月5日より「診察呼出モニター」、「会計呼出モニター」、「中央採血室呼出モニター」の映像をYouTubeでライブ配信するサービスを開始しました。これにより、スマートフォンやタブ

レットから呼出状況をリアルタイムでご確認いただけます。ぜひご活用ください。

モニターライブはこちらから →



呼び出しモニター(通常時)



呼び出しモニター(呼び出し時)

"YUMEHO." from 2025

病院だよりリニューアル記念 ～メモリーズ～

MEMORIES

Since 1994



2012年の新年号から冊子になりました

掲載Topics

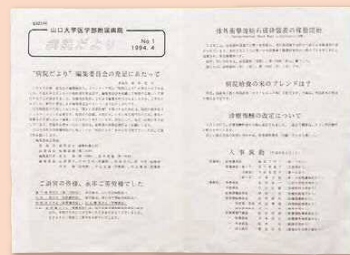
- 病院長新年のご挨拶
- ドクターヘリ2011年の活動を振り返ってなど



掲載Topics

- 第三内科長就任のご挨拶
- 「病院だより」発刊100号を迎えて など

第100号では谷澤幸生学長の第三内科長就任を紹介



掲載Topics

- “病院だより”編集委員会の発足にあたって
- ご退官の皆さま、永年ご苦労様でした
- 体外衝撃波結石粉砕装置の稼働開始
- 病院給食の米のブレンドは？
- 診療報酬の改定について
- 人事異動

記念すべき第1号はB4サイズの紙に2ページでスタート

1994年4月の初版発行から丸30年が経過した「山大医学部・病院だより」リニューアルにあたり、これまでの歴史を振り返りました。

### 3 手術用ロボットの動かし方

ロボット手術では、体に複数の小さな穴（ポート）を開け、ロボットアームに装着した細長い手術器具と内視鏡カメラをその穴から体内に入れて手術を行います。操縦席（サージョンコンソール）に医師が座り、目の前の画面（コンソールモニター）に映し出された高画質の3D映像を見ながら、遠隔操作によってロボットアームを操作します。画面のズームインやズームアウトも自在にでき、医師の手さばきをロボットアームが精密に再現することで高度な手術を行うことができます。



医師はここから遠隔操作でロボットを動かしています



手も足も動かしてロボットを操作します

## Information

市民公開講座を開催します

「からだに優しいロボット手術とがんのお話」

日時：令和7年2月1日(土) 15:00~16:00(開場14:00)

会場：下関市生涯学習プラザ 多目的ホール  
(下関市細江町3丁目1番1号)

参加費：無料

お問合せ：山口大学医学部 広報・国際係

TEL 0836-22-2009

(月~金曜9:00~16:00)

本院の低侵襲手術センターをYouTubeで紹介しています→



ロボット手術の様子



## Da Vinci Xi

手術支援ロボット「ダヴィンチ」

### 1 ロボット手術とは？

ロボット手術とは、手術専用の医療用ロボット（手術支援ロボット）を使って行う手術のことです。本院には現在、2台の手術支援ロボット「ダヴィンチ」があり、外科、泌尿器科、産科婦人科領域において、腹腔鏡下手術や胸腔鏡下手術の際にロボット手術を行うことができます。

ロボット手術といっても、ロボットが自動で手術を行うわけではありません。実際には医師が遠隔でロボットを操作し、手術を行っています。

# 「ロボット手術」を知る Robotic Surgery

### 2 手術支援ロボットとは？

手術支援ロボットは、①操縦席（サージョンコンソール）、②ロボット部（ペイシェントカート）、③モニター部（ビジョンカート）の3つの機器によって構成されています。ロボット部には、人間の関節の可動域を超える多関節の機能（ロボットアーム）が4本あり、3本が手術用アーム、1本がカメラ用アームになっています。

このロボットアームの先端に、「切る」、「つかむ」、「おさえる」、「縫う」など、手術における繊細な作業を正確かつ精巧に行うことができる手術器具（アタッチメント）を取り付けてロボット手術を行っています。

本院では、2012年に全国の大学病院に先駆け、手術支援ロボット「ダヴィンチ」を導入し、2023年4月には山口県内初となる2台目を導入しました。



お米のような小さなものもつかめます



### 4 ロボット手術の特長

ロボット手術では体に穴を複数開けますが、一つの穴は1cm程度と小さいです。手術中の出血量が少なく、手術後の疼痛は開腹手術に比べて小さいのが特長です。このように体への負担が少ない手術のことを「低侵襲手術」といいます。低侵襲手術はロボット手術のみではなく、胸腔鏡下手術や腹腔鏡下手術なども該当します。

近年の手術において、「ロボット手術」というワードを耳にする機会が増えました。ロボット手術とはどういう手術なのか、実際にロボットが手術を行っているのか？など、ロボット手術の詳細について紹介します。



山口大学大学院医学系研究科  
耳鼻咽喉科学講座 教授

菅原 一真

このたび、令和6年11月1日付で大学院医学系研究科耳鼻咽喉科学講座の教授を拝命いたしました菅原一真（すがはら かずま）と申します。私は奈良県出身で私立東大寺学園高校を卒業後、山口大学医学部に入学し、平成8年に卒業いたしました。その後、高橋正紘元教授が主宰されていた山口大学医学部耳鼻咽喉科学教室に入局しました。耳鼻咽喉科の研修を行う一方で、大学院では、山下裕司前教授のご指導のもと、臨床応用を視野に入れた基礎研究に取り組み、内耳への薬物直接投与を行う動物モデルの確立に成功しました。

平成15年からは米国ワシントン大学に留学し、内耳器官培養技術を導入しながら、多様な薬剤の内耳に対する効果を詳細に検討してきました。近年では、ゼブラフィッシュ側線器の有毛細胞を新たな研究対象に加え、薬剤スクリーニング研究を開始しております。また、生化学教室との共同で遺伝性難聴の原因遺伝子の機能解明を目指した

このたび、就任しました。  
よろしく願いました。

遺伝子改変動物の作成および研究を進めております。

さらに、高齢化社会において、耳鼻咽喉科が扱う感覚器の機能低下が高齢者のQOL（生活の質）に及ぼす影響に着目し、老人性難聴のメカニズム解明と予防法の開発にも取り組んでいきます。今後は、研究から得られる知見を基に内耳疾患に対する新しい治療法の開発に取り組んでまいります。

診療においては、病棟医長として耳鼻咽喉科診療全般のマネジメントに携わり、耳科手術指導医として、進化を続ける人工聴覚器医療を県内の難聴患者さんに導入する取り組みを進めてまいりました。また、臨床遺伝専門医として遺伝性難聴患者さんの診療にも尽力しております。

これまでの経験を通じて得た知識や技術を、より多くの患者さんに還元できるように、今後も努力を続けてまいります。皆様には引き続きご指導、ご鞭撻を賜りますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



お仕事紹介  
看護部編③

看護部の理念である「あたたかい看護の探求と実践」を実現する認定看護師をリレー形式で紹介します。

手術看護認定看護師

熊谷陽子さん



Q. お仕事の内容について教えてください。

手術を受けられる患者さんには不安や緊張などの気持ちがあるので、安全・安楽に手術に臨めるよう手術の前後で患者さんを訪問し、心理的サポートをしたり、手術中は器械出しをしたりと、患者さんに寄り添った看護を目指しています。また、認定看護師として、スタッフの相談に応じたり、指導をしたりすることもあります。

Q. 看護を実践する上で気を付けていることは。

手術前のオリエンテーションでは、患者さんの要望を確

認するようにしています。例えば、「手術が始まるまでそばにいてほしい」、「音楽を流してほしい」などといったご要望があればスタッフに共有し、できる限り実践するようにしています。

また、手術にいたった思いや、やりたかったことなど、患者さんの心の内をなるべく細やかにうかがい、手術を医療者まかせにするのではなく、ご自身のこととして前向きに捉え、医療者と一緒ががんばろうと思っただけのようなケアを心がけています。

# 「心臓リハビリテーション」って



## 知っちよる？



「心臓リハビリテーション」と聞くと、心臓にリハビリがいるの？と思う方もおられるかもしれませんが。リハビリとは本来「人がその人にふさわしい生活を回復すること」を意味します。ですから、何かしらの心臓病によって、心臓の機能がその人の日常生活を支えられないほど衰えてしまうと、「心不全」に陥った場合には、心臓にもやはりリハビリが必要です。

心臓のリハビリは、心臓の一部の筋肉や神経を鍛えるものではありません。心臓は、実は「手間がかかる」器官で、弱った心臓を回復させるためには適切な服薬、適度な減塩食、適度な有酸素運動といった「総合的な療養」が必要です。

本院の第二内科には、医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・ソーシャルワーカーといった多職

種のプロフェッショナルスタッフが構成される「心臓リハビリテーショングループ」があります。グループでは、スタッフ同士で緊密に連携をとり、患者さんの心臓と日常生活の回復のための心臓リハビリプログラムを考え、患者さんに提案し、ていねいに指導しながら患者さんの心臓リハビリテーションをサポートしています。



適度な有酸素運動による心臓リハビリテーションの様子



心臓リハビリテーショングループのスタッフ

## プロフェッショナルスタッフが心臓と日常生活の回復をサポートします



栄養指導担当のスタッフが食事面をサポート

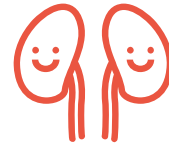


服薬の説明は薬剤師が行います



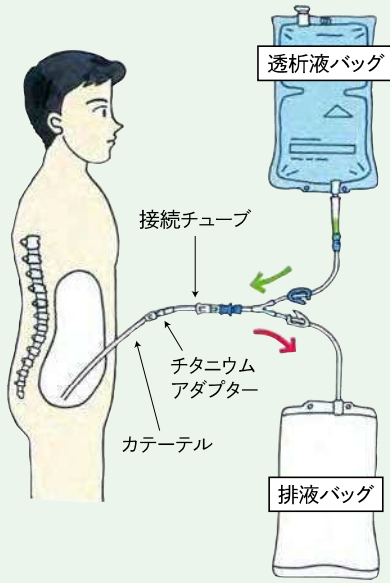
入院中や退院後の生活支援は看護師が担当

■腹膜透析



読んで学ぶ  
腎臓病教室  
#02

HEALTHY KIDNEYS



腎機能が悪化する原因となる疾患には、慢性糸球体腎炎をはじめ、糖尿病や腎硬化症などがあります。

腎機能が悪化すると、腎臓の代わりにする治療「腎代替療法」が必要になります。これには、透析療法（血液透析、腹膜透析）と腎移植（生体腎移植、献腎移植）があります。

透析療法の一つ、腹膜透析（PD）とは、カテーテルを使ってお腹の中に透析液を入れ、半透膜の腹膜をろ過フィルターのように使って老廃物や水分の除去を行う治療法です。透析回数は腎臓の機能がどの程度残っているかによって異なりますが、概ね1日4回程度、透析液が入った透析バッグを交換します。腎臓がある程度機能していれば、自動的に透析液を出し入れする専用の装置を使って、就寝中のみ透析を行うこともできます。いずれの場合も自身で治療を行います。

腎機能が悪化したら  
「腎代替療法」が必要です



慢性閉塞性肺疾患 令和6年11月19日(火)

COPD周知啓蒙活動を実施

COPDとは、慢性閉塞性肺疾患（COPD：chronic obstructive pulmonary disease）の略で、慢性気管支炎や肺気腫と呼ばれる病気の総称です。本院では、11月15日の世界COPDデーにちなみ、本院B棟2階エレベーターホールにおいて、チラシの配布やパネルの展示、どんな症状かを体験する「COPD体験」など、周知啓蒙イベントを開催しました。

また、アウェアネスカラーライトアップの取り組みとして、A棟1階をCOPDのシンボルカラーであるゴールドにライトアップしました。



パネルの展示やチラシの配布を行いました

未来を創る「革新の種」  
育成ふるさと寄附を募集

宇部市との連携により、『未来を創る「革新の種」育成ふるさと寄附』が始まりました。この取り組みは、地域に貢献し、地域課題の解決に取り組む未来のリーダーを育てることを目指し、ふるさと納税制度を活用するものです。ご協力をお願いいたします。

詳しくはこちらから↓



TOPICS

TOPICS

インドネシア・ウダヤナ大学の学生2名が、11月25日（月）～12月20日（金）の期間で本学医学部に短期留学しました。滞在中は救急医学講座と小児科学講座、法医学講座において、手術の見学やカンファレンスに参加するなど臨床実習見学を行いました。修了式で修了証を渡された留学生からは「数多くの貴重な体験ができた。また山口大学医学部に戻ってきたい」といった言葉が聞かれました。

## ウダヤナ大学の 短期留学生を歓迎

令和6年11月25日（月）～12月20日（金）



修了式を終えて



## 保健学科生10名が国際交流

### A PAHLフォーラムに参加

令和6年11月6日（水）～9日（土）

APAHLとはアジア・太平洋地域における看護・健康科学のリーダーとなる人材の育成を目指した国際連携事業です。令和6年11月6日（水）～9日（土）の4日間、医学部保健学科2～4年生10名が、タイのマヒドン大学がホスト校となり開催されたAPAHLフォーラムに参加しました。各国の文化的な背景や医療事情を共有し、テーマ「個別化医療」に基づいたディスカッションを行うなど、有意義な4日間を過ごしました。

山口大学医学部ではAPAHLの活動を通して、世界で活躍する医療人の育成に力を入れています。

TOPICS

## 令和6年度 医学部医学科

令和6年12月20日（金）

TOPICS

# 白衣着衣式挙行

令和6年12月20日（金）、講義棟C第3講義室において、令和6年度医学部医学科白衣着衣式を執り行いました。

本式典は医学生共用試験に合格した4年生に、医学生としての決意と自覚を促すことを目的として、毎年実施しているものです。

はじめに田邊剛医学部長の訓辞があり、白衣に込められている「清潔白」と「高い専門性」という2つの意味について話されました。続いて112名の学生の総代として、藤本滯さんが医学生共用試験合格証および臨床実習生（医学）証を授与されました。

続いて、医学部同窓会「霜仁会」の福田進太郎会長による挨拶のあと、同会から授与された白衣を学生全員が着衣しました。藤本滯さんからは、式典開催に対する謝辞と、医療人としての新たな一歩を踏み出す決意が述べられました。

医学部附属病院の松永和人病院長からは、これまで多くの



辛いことを乗り越えてきた自分をほめること、また、臨床実習の時間を大切にしながら学びを積み重ねることを期待する旨の言葉が贈られました。

医学科4年生は1月から本院において、指導医の下で臨床実習を行います。



## 治療紹介

### 再発難治性血液腫瘍に対する CAR-T細胞療法がスタート



第三内科/輸血部

中邑幸伸 准教授

CAR-T細胞療法は、再発難治性の悪性リンパ腫や多発性骨髄腫、若年者の急性リンパ性白血病に対して適用がある新しい免疫療法です。患者さんから採取したTリンパ球に、腫瘍細胞に作用する遺伝子を導入し、CAR-T細胞を作ります。これを培養・増幅させて患者さんに投与すると、CAR-T細胞が腫瘍細胞を攻撃し、駆逐します。このCAR-T細胞は自己増殖するため、何度も投与する必要はありません。

これまで山口県では、このCAR-T細胞療法を実施できる医療機関がありませんでしたが、令和6年10月より、本院の第三内科で実施できるようになりました。県内では、本院が唯一の医療機関です。治療は高額療養費制度の対象になります。診療をご希望の場合、あらかじめかかりつけ医にご相談いただき、医師による予約取得の上、紹介状をお持ちになってご来院ください。

医療に進化を 患者さんにより良い人生を

医療の最前線で力を尽くす人々と、世界のパートナーとともに  
テルモは100年の品質と技術を基盤に、患者さんのかけがえのない人生を支えていく。

さあ、ともに医療の未来へ



 **TERUMO**

テルモは世界160以上の国や地域の医療を支えています。

テルモ株式会社  
[www.terumo.co.jp](http://www.terumo.co.jp)





## 未来の医療人

輝く明日に向かって  
学びを進める  
医学生に注目



### 大腸がんの進行腺腫を 検出する新検査法を開発

医学科4年生 井上裕加里さん

通常、大腸がんの検査には便潜血検査が用いられますが、この検査は大腸がんについては高い精度で検出できるものの、がんの手前である前がん病変などの進行腺腫については検出精度が十分ではありません。そのため、消化器がんの早期診断に使える検査法を見つけることが、3年次の自己開発コースで所属した臨床検査・腫瘍学講座の研究の主題に挙がっていました。



〈指導者より〉高い検査精度で進行腺腫を検出する方法を発明したのは、井上さんが世界初です。自ら英語で論文を発表し、特許の申請まで行う姿勢も大変素晴らしいと思います。

約半年間の研究で、私は、便潜血検査にDNA検査と年齢の因子を組み合わせることで、進行腺腫を検出できる予測式「FAMSインデックス」を考案しました。これにより、便潜血検査のみの結果より約2倍の精度で進行腺腫を検出することに成功し、海外に論文を発表しました。

現在、この実用化に向け、特許を申請するとともに実証実験を行っているところです。将来的にこれが新たな検査法として認められると、進行腺腫を発見しやすくなり、消化器がんの早期治療も可能になることが期待されます。



(右から)臨床検査・腫瘍学講座の山崎隆弘教授、井上裕加里さん、末廣寛准教授



## 医療を通じて 社会に貢献する

私たちは、医療の分野において  
価値ある商品とサービスを提供し  
医療を支える人・受ける人双方の信頼に応え、  
社会に貢献します。

テルモ山口は、ここ山口の地から世界へ優れた医療機器・医薬品をお届けしています。

テルモ山口株式会社



詳しくはウェブサイトをご覧ください。



これ、Kitchen Yumeho.  
おいしい  
ほっちゃん!



アレンジ②

具たくさん味噌汁

材料(4人分)

なす……………小2本  
人参……………20g  
玉ねぎ……………1/4個  
ねぎ……………3g  
油揚げ……………1/3枚  
節分豆……………20g  
みそ……………大さじ2杯強

栄養成分(1人分)

エネルギー 65kcal  
たんぱく質 4.1g  
脂質 2.3g  
糖質 9.0g  
食塩相当量 1.2g

「大豆の魅力」

大豆はたんぱく質やカルシウム、食物繊維が豊富です。簡単に調理できる水煮のレトルトや缶詰もありますが、炒ってある節分豆は賞味期限が6か月から1年と長期保存が可能です。小分けの袋に入ったタイプの節分豆なら使いやすく便利です。

アレンジ③

サラダ

材料(4人分)

レタス……………100g  
トマト……………1個  
サニーレタス……………80g  
セロリ……………80g  
節分豆……………20g  
青じそドレッシング…大さじ1

栄養成分(1人分)

エネルギー 45kcal  
たんぱく質 3.0g  
脂質 1.2g  
糖質 7.0g  
食塩相当量 0.8g

～ 節分について ～

節分とは、本来「季節を分ける」ことを意味し、年に4回訪れる立春・立夏・立秋・立冬の前日を指す言葉です。2月の節分には「鬼は外 福は内」と豆を撒き、年齢の数だけ豆を食べる風習が定番ですが、意外と豆が残ってしまった…というご家庭もいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回は、節分用に買った豆が残ってしまった場合のアレンジ法を紹介します。

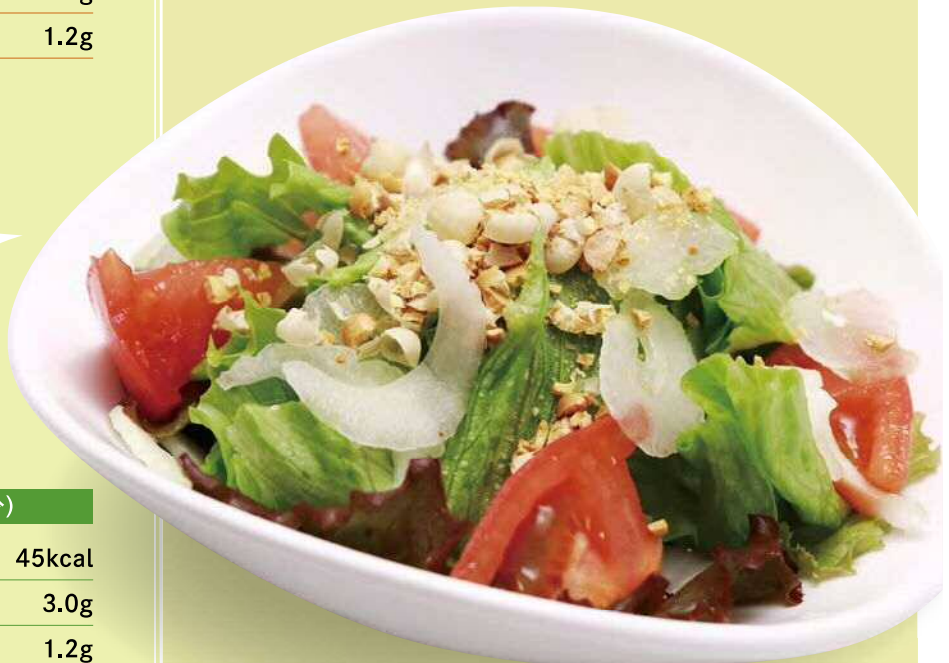
節分豆のアレンジ法

- ①大豆をミルサーにかけて「きなこ」に  
→ヨーグルトにかけたり、牛乳にまぜたりすると栄養価がアップ
- ②大豆を湯の中に入れてふやかし「煮豆」に  
→味噌汁に入れると、味のなじみが良くておすすめ
- ③豆を袋に入れてめん棒で押しつぶし「ナッツの代用」に  
→サラダのトッピングとしてふりかけて、サラダをグレードアップ

アレンジ①

ワンポイント  
アドバイス

- 茶こしでこすと、きなこのきめがより細かくなります。
- ミルサーがなければ、袋ごとめん棒で押しつぶすと簡単に碎けます。



監修：堀尾佳子 (管理栄養士)

公式FacebookとInstagramで  
山大医学部・病院の情報を発信中



Facebook



Instagram

企画発行

山口大学医学部広報委員会 / 山口大学医学部総務課広報・国際係  
〒755-8505 山口県宇部市南小串一丁目1番1号 TEL 0836-22-2111  
医学部 <https://www.yamaguchi-u.ac.jp/med/>  
附属病院 <http://www.hosp.yamaguchi-u.ac.jp/>